

中国における英語教育の現状

—— 日本の英語教育を再考するために ——

宮内 敦夫*

はじめに

中国が改革開放政策をとって以来、経済活動は活発化し、近年の経済発展はめざましく、昨今の石油や鉄鋼などの高騰は中国の需要が影響している。経済の発展は一国内だけで達成できるものではない。当然諸外国との交易が必要である。そのための手段として外国語教育が必要である。

中国の大学受験生の学部人気度を見ても、いかに経済発展が目覚ましいかが分かる。人気度は世界経済・経営、コンピュータ、外国語（英語）、法律の順で、医学は最低の人気だそうである。ある大学教授は、優秀な人材が医学部に集まらないので将来が危惧されると言っていた。医学は地味で投資が大きい割には儲からない職種なのである。中国は、改革開放以来急速に資本主義社会との交流が盛んになった。その手段として、ロシア語に代わって英語・日本語教育が主流となった。経済的発展と共にその必要性は増すばかりである。特に英語教育が最重要視されている。

改革解放前は外国語といえばロシア語であったが、英語がこれに取って代わり、ロシア語は一番人気のない外国語になってしまったそうである。英語に次ぐ人気外国語は日本語である。書店では、英語に次いで日本語の学習教材、資格試験受験教材が大きなスペースを占めている。大学英语考試（Collage English Test, CET）、全国公共英語等級考試（PETS）、TOEFL、TOEICなどの資格検定学習書が目立つ。以前は中学から行われていた英語教育が、小学校3、4年から行われ、2003年からは重点実験小学校でない一般小学校でも1年生から始めるとのことである。都市部から始め、何年かの猶予があるが早晩全国で1年生から導入するとのことである。

これほど盛んに行われている英語教育が教育の現場ではどのように行われているのか。筆者は数年にわたり沿海部の大都市と内陸部の小学校から大学までの学校の教室で授業参観、教師との意見交換をしてきた。これを基に、中国における英語教育の現状と大学英语試験（College English Test, CET）について考察したい。

1. 中国の教育制度

中国の教育制度は、初等教育、中等教育、高等教育に分けられ、日本とほぼ同じ6/3/3/4制で

*東洋大学国際地域学部教授

ある。小学校、初等中学（日本の中学校）、高級中学（日本の高等学校）、大学である。義務教育はそのうち小学校と初等中学までで、日本と同じである。年齢的には6歳から9年間である。しかし、日本のように住民登録をすれば、どこの公立小中学校にでも在学できるわけではない。地方から都会に出てきても、都市住民戸籍が容易にもらえるわけではない。都会に住みながら、公立学校に行けない児童がたくさんいる。

日本では中学まで、留年や飛び級もなく自動的に進級できるが、中国では各段階の卒業に際して、省や自治区、県などの一定単位で共通卒業試験が実施され、留年や飛び級がある。小学校の卒業試験は廃止の方向にあるが、中学の共通卒業試験は、同時に高校選抜試験を兼ねている。高級中学においては、省、自治区、直轄市で、科目ごとの共通試験が実施され、これに合格することが卒業要件である。大学への進学者は全国統一試験により選抜される。大学の入学者受け入れにも日本と相違がある。日本では出身地は問わず成績順に合格を認めるが、中国では事情が異なる。たとえば、（数値は正確でないが）上海の大学なら市内の高校卒業生から6割、近隣の省の出身者から3割、それ以外の地方から1割という割り振りがあ。地方の出身者にとっては、大都会の大学進学は非常に狭き門である。従って、都会の大学の優秀な学生の多くは地方出身者である場合が多い。

中国の大学教育の特筆すべきものは、外国語試験である。在学中に第一外国語（主に英語）の全国統一の英語レベル試験—大学英語四六級考試（Collage English Test, CET）の4級以上に合格しなければならない。これに合格しないと、卒業できない。あるいは、卒業できても卒業証書がもらえないことが多い。英語・英文学科はもとより英語を重要視する学科では、もっと高度な6級を義務づけている。大学院進学で6級が望ましく、公務員は4級が義務づけられている。昔から官吏登竜門として考査を行った中国の伝統が現在の学校教育にも生きていっているといえる。

教 育 制 度		外 国 語 教 育
初 等 教 育	小学校（6年間：農村部では5年間の例もある）[卒業生約2117万人]	小学校での外国語教育を推奨。条件が許せば小学3年生から開始。近年1年生から実施。ほとんどが英語
中 等 教 育	初等中学段階 普通中学校（普通初級中学3～4年間：4年制は5年制小学校に対応）[卒業生1580万人] 職業中学校（職業初級中学校3～4年間）	第一外国語は初級中学から開始。英語・日本語・ロシア語・韓国語からの選択だが、ほとんどが英語。内モンゴルでは第一外国語は中国語、第二外国語として英語（クラス平均50人、授業時間45～50分、34週／年、週5時間（英語）が一般的
	高級中学段階 普通高校（普通高級中学3年間）[卒業生252万人] 職業高校（職業高級中学2～4年間） 普通中等専門学校（3～4年間） 技工学校（2～3年間）など	他に全国10カ所ほどの外国語学校（中等専門学校）がある。
大 学 等	大学学部（本科4～5年間） 短期大学（専科3～4年間） 高等専門学校（2～3年間） 短期職業大学（2～3年間） [大学・短大等卒業生83万人]	1～2年次第一外国語必修（主に英語） 2年次終了時に統一試験ある。第二外国語は一般的に大学から開始。 英語・日本語・ロシア語・ドイツ語・フランス語などから選択
大 学 院	修士課程（碩士研究生3年間） 博士課程（博士研究生3年間） [卒業生約5万人]	大学院進学者英語検定6級が合格条件。未取得の者は在学中に取得のこと。

資料：「1998年全国教育事業発展統計公報／中国」「日本語国際センターの資料」「英語教育1997.11／大修館書店」
<http://www.kirihara-kyoiku.net/peripatos/04/01.html> 参考

2. 中国の英語教育の歩み

中国の英語教育は中華人民共和国成立後の1950年代に始まったようである。1966年に始まった文化大革命当時にも英語教育は行われていたが、英語教育は社会主義をプロパガンダするための手段と考えられていた。外国語といえば、旧ソ連との関係で当然ロシア語であった。現在英語第一であることは、経済開放政策と国際化に即応する外国語教育政策の変化と社会の需要を如実に物語っている。

1972年に日中国交が回復すると、1985年から1990年にかけて日本語教育が盛んになり大学に日本語学科が設置された。1990年以前は第一外国語として学ぶ学生が4割を超えていたが、今ではそれが英語に取って代わられてしまった。現在、日本語はそのブームは過ぎたが、外国語教育として定着している。筆者は2002年に北京より1200キロほど北西の寧夏回族自治区の首都銀川市にある寧夏大学を訪問した折に日本語専科の日本人教師による評論文の解釈の授業を参観したが、学生の日本語運用能力は相当高いと思った。日本の大学への進学が盛んであるため、また、日本企業の中国進出、日本との交易の急増などの理由で、日本語の需要は非常に高い。大学だけではなく、専門学校や語学学校での日本語教育も当然盛んである。

1970年代以降は、中等教育課程では英語が主流になった。改革開放政策により経済発展を目指す中国政府は、まずは先進国から科学技術情報の導入をしなければならない。英語はその導入のための手段として明確に位置づけられた。日本の明治時代に始まる外国語教育が、西洋の学問・技術の導入手段として読解力中心の外語学教育であって、それが現在まで尾を引いているが、中国の英語教育も同様である。会話力よりも語彙・読解力の養成が主眼であった。その反省から、会話力養成をも重視する新たな教育戦略が今採られつつある。

3. 中国と日本の英語教育事情の相違

日本と中国の英語教育では事情はかなり違う。言語そのものの特徴は別にして、教育制度や教育を取り巻く環境、学生の学習目的、学生の意欲の点で相違がある。筆者がここ数年間で小学校から大学まで何校の英語教育の現場を参観し教師と話し合ったことをもとにこの点について述べたい。

中国が改革開放政策を採って以来、産業界は計画経済から市場経済に移行し、経済市場はますます拡大し世界との交流が盛んになった。こういう中で英語や日本語など外国語が駆使できることは、その手段として最大の武器である。中国のカリスマ的英語教師リー・ヤン氏が大群衆を集めて英語学習の効用と学習法について熱狂的に講演する様が日本のテレビで放映されたことがあるが、これが中国の英語学習の目的を象徴している。「英語を話して、日欧米に打ち勝ち、金を儲けよう」と呼びかける。中国人にとっては、英語ができることは、外資系の会社に就職したり、外国と貿易できたりできる、金持ちになる手段なのである。「英語力＝金儲け」「語学力＝経済エリート」という環境にある。

筆者の所属する学部には多くの中国人留学生がいる。大半は英語学習経験がある。一部日本語専攻で英語を勉強していない者もいる。現在、英語の不得意な、あるいは、学習経験のない中国人学生の英語の授業を担当しているが、彼らは、日本語だけでなく英語がもう一つできることが大切であるとの認識である。従って、休学して1年間程英語圏へ語学研修に行ったり、卒業後英語をものにするために、続けて英語圏の大学に留学を希望する者が少なくない。その主な理由は、日本を含む外資系企業に就職したい、外国との貿易業を将来起したい、観光業に従事したいなど、高所得の得られる将来の職業選択、あるいは国際的活動に参画しようとする目的意識による。意欲と目的意識が普通の日本人学生よりはるかに高い。

「中華英才网」(2002年9月)が発表した北京、上海などの大都市で行われた収入調査に言及している。この調査によると、英語習得が高収入のための最重要な条件であることを明らかにしている。(桐原教育ネット『ペリパトス』4号 http://www.kirihara-kyoiku.net/peripatos/04/01_.html)

この調査によると、外国語上級者の平均年収は5万3378元、中級者の平均年収は3万1211元である。この調査対象者の81%が大卒者である。修士号取得者の平均年収は6万618元で、博士号取得者の5万7991元より4.5%高かった。」「(人民網日本語版)2002年9月)

一概にはいえないが、中国の平均給与は、都市部で月収3万円、地方都市で1.5~2万円、内陸部の農村で年収3~5万円程度である。一家の収入としては夫婦共稼ぎが多いのでその倍とみればよい。内モンゴルの田舎町のある住民は月収夫婦で2万円程度、若い女性の役所の初任月給5000円だそうである。

教え子たちの中国での就職状況を見ると、外国の大学卒業だけでは国内の大学卒業者と給与に差はない。留学以前に職歴のあるものはそれなりに高く評価される。海外の大卒で月収2000元~3000元程度で、語学力+技術+大学院修了というように、高条件が加われば給与はよくなる。ある教え子は、日本に来る前に職歴があり日本で学部・修士を終えているが、上海の企業から住居付きで月収11万円を提示されたが、それを断り、日本で就職をした。日本に留学したものにとっては、当然のことながら、日本採用で、日本と中国を行き来できる会社が魅力的である。最近、日系企業でも現地採用給与適用が多くなっているようだ。外国語即高収という図式は、外国語学習の動機付けの大きな要因である。日本でも外国語に堪能であることは当然就職に有利ではあるが、これほど深刻には学生に受け止められてはいない。日本には大学の卒業要件としての英語検定試験もない。社会も就職の絶対条件として検定資格を要求しない。社会的環境からくるこのモチベーションの違いは学習成果を左右するもので、中国と日本の外国語教育の決定的違いといえる。

4. 日本と中国の英語教育の内容的相違

日本人は文法や読解は強いが、会話は弱いとよく耳にする。果たして文法や読解は強いのであろうか。近年、中学・高校・大学とも英語教育でコミュニケーション能力の養成に力点を置くようになったが、会話力が特に伸張したとも思われない。読み・書き・文法力とも以前よりは低下して全

体的に語学力が薄まってしまったという感じがする。大学のセンター試験に2006年度よりリスニング試験が加えられる。コミュニケーション能力の英語教育政策に対応するものだが、安価で信頼できる器具が開発されれば、私立大学でも早晚この方法を取り入れることになるであろう。

中国の英語教育も過去においては文法・読解力、特に語彙を増やすことに力点を置いてきた。しかし、現在の目標は、コミュニケーション能力を重視して、実用的総合的言語運用能力の養成で、「聴く・話す・読む・書く」のすべてである。日本と同様であるが、過去においては、外国の文物を吸収する、科学技術を導入する手段として読解力が重視された。今、国際化、国際的市場経済の中で、貿易・文物の交流のために英語という国際語の実用的な能力が必要である。読み書きだけではなく、話せなければならない。知識としての外国語ではなく、スキルとしての外国語能力である。

ここに CBT (Computer-based Testing) を使った TOEFL の中国・韓国・日本のデータがある。

(<http://www.edvec.co.jp/research-institute/educative-inf/overseas-info/1.html>)

1999年～2000年実施の CBT の TOEFL 平均スコア

	中国	韓国	日本
リスニング	53	51	50
文法・構文・ライティング	58	54	51
リーディング	57	56	51
トータルスコア	168	160	152

まずこのスコアを見て言えることは、日本は、3国で最低であること、中でも日本が強いはずの文法・構文・ライティングでも他国に及ばないことである。会話力養成のために、学習要領の改訂で1993年に中学校、94年に高校でオーラルコミュニケーションを導入したが、限られた時間配分の中でのやりくりであるので、文法が犠牲になった。日本のように日常生活で使うことのない英語を習得するためには、文法は読み・書き・会話のいずれにとっても基本である。筆者の教える日本人学生たちの中に、文法が弱いという学生が目立つが、これは改訂の弊害なのだろうか。特に正確な英語を書くためには文法の知識は欠かせない。学生の作文に、「日本の経済は長い間上向きにはならないだろうと思われる」という文を、It thinks that Japanese economy will not go up for a long time.と書いた者が何名かいたが、I think that……というべきところを、なぜ It thinks that……という表現になるのか当初検討がつかない。これは英語の文法を理解していないで日本語の英語への文字通りの置き換えにしかすぎない例である。

日本人の英語レベルは国際的に見ると、聴解力、文法・表現力、語彙・読解力いずれにおいてもよくない。資料は古いが、TOEFL Total and Section Score means—Nonnative English Speaking Examinees Classified by Geographic and Native Country, TOEFL-Test and Score Manual Edition, p.25) によると、アメリカ・カナダの大学に留学を希望して受験した TOEFL のスコアの集計 (1984-86の平均値、181国、受験者71万人余) によると、日本人のスコアは次のようになっている。

比較項目	日本人の平均スコア	181国・地域	アジア26国地域
聴解力	49点	101位	20位
文法・文章表現力	50点	103位	14位
語彙・読解力	49点	107位	19位
総 合 点	496点	109位	18位

アジア圏には、香港、マレーシア、フィリピン、インド、バングラデシュなど日常英語を使っている国にはかなわないにしても、せめて10位にいないければ、英語が得意とはいえない。語学力はすべての分野において劣ることを認めなければならない。

筆者が参観した中国の小学校から大学までの英語の授業では、教師は英語で授業運営をしていた。綿密な指導案に基づいているのであろうと思われるが、1時間をとぎれなく使う。冗談や世間話を交えた笑いや休息がない。スキル向上のための単語・熟語・構文の暗唱暗記に力点があるかに見えた。異文化への興味・理解や教材の内容を楽しむという仕組みではない。このように見受けられた。筆者の教え子たちに聞いてみると、中国の教育は詰め込み教育でおもしろくなかったという者が多い。

教師が英語で授業運営をするという点は看過できない。中国では、英語の教師に英米人を多用しているわけではない。ほとんどいないのではないだろうか。筆者の面会したすべての教師が会話は堪能であったが、どこで学んだか留学経験を尋ねると、ほとんどの人は国内の大学あるいは香港で学んでいる。欧米豪州という人は大学人の一部だけだった。

日本の英語教育を改善するためには、英語の授業は英語で教える Direct Method を取り入れることを推進しなければならないと思われる。中学・高校大学ともその方向にあるが、教科書自体が日本語で教えるようになっているので、これから変えなければならない。たとえば、設問を英語で表記すること、文法用語を英語で教えることなど多くの課題がある。大学の授業で、文法事項を英語で説明しようとする、文法用語をいちいち英語と日本語で符号しなければならない。

大学での英語教育には改善すべき点が多い。まずできるだけ英語で授業運営すべきである。ほとんどの大学では Native Speaker が受け持つ授業があるが、週1、2回の英語で行われる授業では十分ではない。日本人教師も英語で授業運営をする必要がある。また、英語の授業だけでなく、専門科目も一部英語で行う授業があるべきである。習う場と実践の場が同時にあることが大切である。フィリピンのように公用語として英語が話されている国でも、大学では英語で専門の講義をするだけでなく、英語の授業が週4、5回あり、徹底して英語教育を行っている。

日本の学校における英語教育の成果を上げるためには、小学校における教育は別にしても、中学から大学まで一貫したプログラムの構築が必要である。大学の教員は概して高校でどのような教科書でどのように教えているのか知らない。決められた卒業単位数（一般的に124単位程度）の中で、8単位から10単位が英語に割かれる単位である。週2時間2年間程度である。この程度の時間数では、高校時代の英語力を維持することが精一杯である。1年間集中的に英語を行うプログラムが行え

れば、その方が効果的なものかもしれない。英語英文科以外では、ややもすれば、英語の授業では学部の専門性に直結する語彙を増やしてくれれば、それでよいという意見もあるくらいだ。日本人英語教師の大部分は英語英文学科出身の人なので、どうしても自分の得意とする英語学的内容、英米文学作品、異文化理解、あるいは、学部の専門教育に配慮して専門科目の入門書的な教材を選ぶ傾向がある。教授内容は、とにかく内容理解、解説的内容になる。実用的スキルとしての英語教育ではない場合が多い。一冊のテキストの内容を味読する旧来の教育をやめて、実用的総合的英語運用英語教育に変えなければならないことを痛感する。

近年は、スキルとしての実用英語を教えようとする傾向が強まっている。そのため TOEFL、TOEIC、英検などの資格への関心が高まりつつあるため、LL や CALL システムを使った授業が行われるようになったが、これとても万能ではない。学生は授業だけに依存するのではなく、意欲を持って自習する姿勢を持たなければならない。海外の語学研修に参加することや短期留学をすることは、モチベーションをつける意味で良いことである。中国のように語学力＝経済的エリートという社会的要求や卒業のために大学英語試験合格という関門もなく、豊かさの中に安住できる現状にあっては、海外体験による動機付けは効果的である。

5. 中国の英語教育現場の視察

筆者は、台湾の高等学校の英語教育を視察したことを契機に、中国の英語教育に関心を持ち数年にわたり以下の学校を視察調査してきた。

(1) 台北の淡江高級中学

1999年に淡水河沿いの町淡水鎮にある淡江 (Tam Kang) 大学と淡江高級中学を訪問した。この大学は裕福な家庭の子女の通う私立大学である。英語教育の重要性は認識しつつも、その成果を出すことの難しさは、日本の学校におけると同様であるようだ。

大学に隣接する付属高校である淡江高級中学(高校)を訪問した。100年以上の歴史を持つ学校で、最初はカナダの宣教師が開校したミッション・スクールであった。李登輝大統領も輩出した名門校。校長姚聰榮 (Albert Yao) 先生に面会し、校長室で教頭先生を交え、2時間ほど中・高の教育一般および英語教育について話し合い、その後施設と授業を見学させていただいた。先生はイギリスに留学経験のある方であったので、英語は流暢であった。学内に風紀の乱れはなく、学習態度は静寂で真剣であった。

1993年の政治変革を経て、教育の重要性と多様化の中で、1996年にコース制が高校教育に導入されるに伴い、外国語教育を一層重要視することとなり、英語教育は小学5ないし6年生から行われていたが、3年生より行われるようになった。淡江高校では、1997年より総合学科制度 (Comprehensive School System) を導入した。英語コース、日本語コース、ドイツ語コース、フランス語コースをつくり、言語と文化などその国に関する総合的知識を学ばせている。従って、英語の授業は英語

コース外の生徒は週5時間であるが、このコースの生徒は週10時間である。高2・高3の英語のテキスト（Far East English Reader for Senior High School 高中英文、第1冊）をいただいたが、構成は読み・文法・会話を含む総合教材である。レベルは日本の教材と同じ程度かもしれないが、指示はすべて英語で書かれていて、単語熟語は英語と中国語で注がついている。

現在の小学校から大学までの英語教育で学生は英語を駆使できるようになるかとの質問に対して、姚聰榮先生の話では、ある程度まではできるが、やはり英語母国人と接する機会が少ないので、英語をものにするためには、英語国で語学研修をするなり、留学するなりして、一層の学習を積み重ねる必要がある。日本の現状と同様と感じられた。

(2) 銀川市実験小学校

2000年2月訪問。この小学校は児童数2000人の実験小学校。「実験」が付くのは新しい教育を実験的に行う教育省指定の学校というような意味で優秀校である。この学校では4年生から英語を教育している。(小学校での英語教育は全国的には2000年から行われているとのこと)4年生の授業は Direct method でおこなわれ、60人ほどの児童を教師は中国語を一切使わずに、最初から最後まで楽しい雰囲気の中で教えていた。45分間の授業を綿密な授業計画に基づいて教える様子には感銘した。「衣類を身につける、脱ぐ」(take on, take off) の表現についての授業。教師の熱意と技術、児童の積極的授業参加は印象的であった。このほかに音楽、舞踊の授業を参観し、他は廊下からいくつかの授業風景をのぞき見させていただいた。校長をはじめ複数の先生が応対してくださり、意見交換をした。



銀川市実験小学校の英語の授業風景

(3) 明安図小学校（内モンゴル）

2004年9月訪問。北京から車で10時間ほど走り、内モンゴルの正じょう白旗の明安図鎮にある明安図小学校を訪問した。学校の施設設備は、校長の裁量と才覚で行えるそうで、校舎を増築しているところであった。生徒数920名。1学年(7歳)～5学年までの5年制 1学年4クラス。英語教育は3学年から始まる。

英 語：1時間／週

モンゴル語：1、2学年は10時間／週、3、4、5学年は8時間／週

中 国 語：1～5学年 8時間／週

内モンゴルでは、中国語が第1外国語で、英語は第2外国語である。授業時間は45分だが、生徒は中国の漢民族の学校と同じく積極的で熱意があり、授業の開始から終了まで緊張感のある授業運

営であった。日本の中学1年生程度の教科内容でほとんどを英語で授業運営していた。

その後、中学校を訪問したが、英語の時間と訪問時間が合わず、授業参観はできなかったが、生徒たちと話をすることができた。

明安図鎮より40キロほど離れた荒涼壮遠な草原の中の布日都という村を訪れた。以前は300戸もあった牧羊の村であったが、今では20戸50人しか住んでいない。その住民のほとんどが役場の職員か小学校の教員である。多いときは700人もいた児童が、去年は2人になってしまい、学費・寮費を一切無料にして、今年は17人まで増えた。備品も満足にない寂しい学校であった。村長さんをはじめ多くの村人と交流をもった。人口の減少はほとんどの人が近くの町に移り住んでしまったためである。



明安図小学校の英語の授業風景



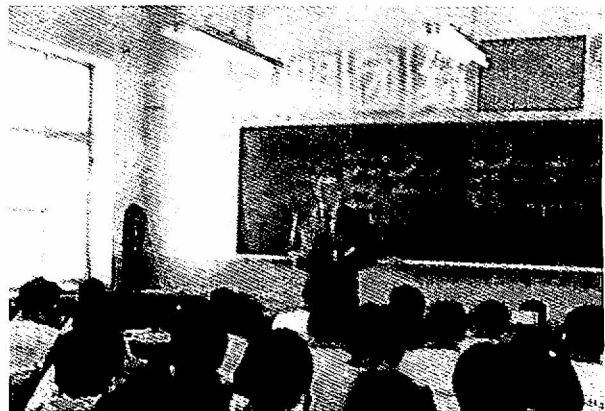
布日都小学校の授業風景

(4) 銀川市第3中高等学校（銀川実験中等学校）

2000年2月訪問。北京より西に1200キロ程北西部に行ったところに寧夏回族自治区の第2の都市である銀川（人口90万人）がある。ここで中等学校と初等学校と大学の英語の授業を参観した。銀川市で評判のよい銀川市第3中高等学校という銀川実験中等学校を訪問し、校長をはじめ複数の幹部の先生方に出迎えを受け、意見交換と授業参観をした。ここで参観した英語の授業は中学2年生の授業（64人）であった。Direct method であった。英語の学習を始めてから1年6ヶ月というのに教師の授業運用のために話す英語（かなり程度が高く、ナチュラルスピード）が理解できること、



銀川市第3中高等学校英語の授業風景

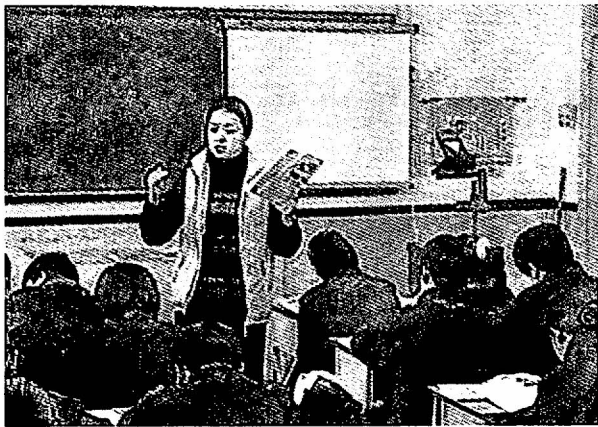


銀川市第3中高等学校で筆者と生徒との対話

教科書のレベルの高いこと、生徒の英語の発音の良さ、熱心で積極的授業参加など驚嘆するところが多かった。時間を頂き、生徒と直接話し合うことができた。

(5) 炉定中学校（上海市内）

2004年2月訪問。上海対外貿易学院の大学院を2003年退職した黄先生の案内で上海市の炉定中学校を訪問した。中国の小中高には一般校と実験重点校とがある。この中学校は一般校とのこと。中学2年生（第8年級）の第2学期の初めての授業を参観。教師は女性の李先生。クラスは教室満席の50人の生徒。私語のない熱心な生徒。授業は英語で運営。過去形の学習。スキットを使った Storytelling、Listening and true-or-false questions, Reading and true-or-false questions など。英語を聞く力、話す力は、同学年の日本人生徒は及ばない。大学生でも多くのものは及ばないのではないか。中国の英語教育は小学校から徹底した direct method である。授業参観後、高副校長と李先生と1時間ほど英語教育について意見交換して訪問を終えた。



炉定中学校の英語の授業風景



炉定中学校の英語の授業風景

(6) 銀川外語培训中心（銀川市）

2004年2月、寧夏回族自治区の銀川市に開校したばかりの公的な日本語・英語の夜間専門学校（当分銀川市第三小学校を使用）。全国で四校とのこと。劉桂前主任と面会し、2時間ほど国際化と日本語・英語の需要について意見交換した。日本語・英語の需要は非常に高いとのことであった。

(7) 寧夏大学

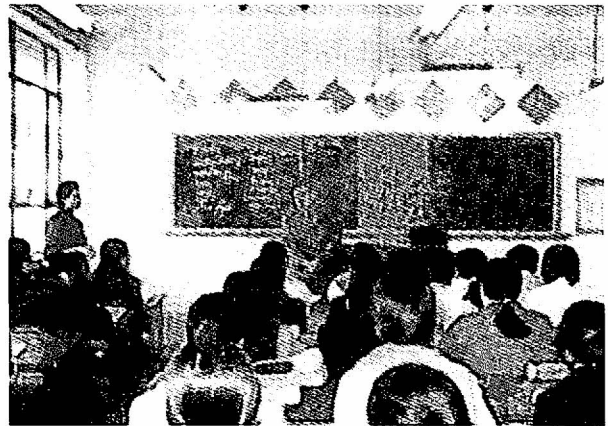
2002年2月と2004年9月に訪問。学生数15000人の総合大学である。英文学科と日本語学科の授業参観と教員との意見交換をした。参観した授業は2年生の英文読解の授業。教科書は中国内で広く使われている大学生用の教本。程度はかなり高い。教授法はやはり Direct method。学生の積極的授業参加は印象的であった。私語はもとより注意散漫な学生も見あたらなかった。

外国学部としては800人の学生数。英文科は1学年100人の学生、130人の語学教員中英語教員は40人。英文学科のカリキュラムは、1日45分授業5時間、週5日、1年次は Speaking と Listening、2年次は Reading と Writing、3、4年次は言語学・文学など専門科目の履修。

日本語学科の授業も参観した。教師は日本人の神田先生。評論文の解釈の授業。学生は17名。学生は非常に熱心。教え甲斐あるとのことであった。英語・日本語の両方のクラスで20分ほど時間を頂き学生たちと意見交換をした。昼食に招待され、英語、日本語の先生と広報局員が同席して歓待を受けた。席上、語学教育、市民生活など幅広い会話をすることができ、大変有益であった。日本語専科（日本の短大相当）で日本語検定1級を取得した卒業生でも良い就職先は容易には見つからないとのことであった。日本の大学の3年あるいは2年次に編入できないかという問いかけがあった。



寧夏大学の英語の授業風景

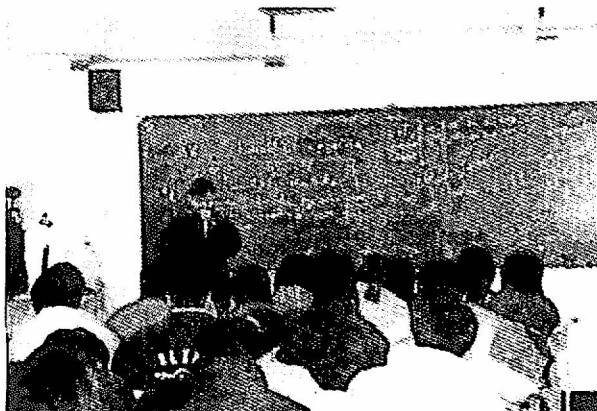


寧夏大学英语の授業で筆者と学生の対話風景

(8) 上海对外貿易学院

2001年2月と2004年9月訪問。筆者の勤務する大学の協定校である。英文学科2年生の授業を参観した。20分ほど頂いて、学生の質問に答えた。寧夏大学の学生よりこの学院の学生の方が、積極性に欠けるようだ。両大学生とも日常生活に不自由のない英会話能力がある。当学院の英文科に入学する学生は入学時に英語で行われる授業についていけるだけの英語力があるそうである。貿易、国際経済などを専門とする大学であるので英語のできる学生が集まる。英文科の学生は2年次で6級をほとんど取ってしまう。英語には相当力を入れている。英文学科以外の授業も英語で行う授業が幾科目もある。

英文学科主任教授、副主任教授、日本語学科の教授たち、英文科の若い教員5人と会合を持った。



上海对外貿易学院



上海对外貿易学院

非常に友好的な意見交換ができた。

(9) 大連外国語学院 (大連市)

2003年2月、大連外国語学院を訪問した。中国語学院長劉川平副教授と、その後、国際交流所長宇晶(英語副教授)と会合を持つ。英語教育、国際地域学部学生の中国語短期研修の受け入れ・交換留学・編入生派遣の可能性について話す。授業参観とキャンパス見学をした。ここでも英語教育には力を入れている。

(10) 復旦大学 (上海市)

2003年3月訪問。本学協定校の復旦大学は約3万人の学生がいる。(4割が大学院生、中国で3番目に優秀な大学といわれている。)外事処(国際交流センター)所長陳寅章助教授、同所職員迂主任、教育学部英語科王教授、高等教育研究所副所長張曉鵬助教授と面会した。

まず、迂主任の案内でキャンパス、授業、日本研究所等を見学した。新たに完成した1万人収容の大学院生用の学生寮、新キャン



復旦大学予備校

パスの完成模型等を見学した。王教授の案内で英語学科のデバート(討論)の授業を参観した。テーマは「都市化と環境」であった。完璧と言える英語力で用意周到な準備に基づき討論する様子には感動した。授業後、王教授と中国の英語教育について意見交換し、今後具体的に意見交換をすることを約束した。

外事処(国際交流センター)所長陳寅章助教授、同所職員迂主任とは本学国際地域学部との今後の交流について意見交換をした。特に、学生の交換、教員の交流については大きな関心を示された。高等教育研究所副所長張曉鵬助教授とは、中国の大学の現状について入学から就職に至るまでの大学教育について話し合った。隣接する学生数3000名の専門学校(進学予備校)に案内され、授業見学をさせていただいた。その後、復旦大学より車で15分ほどの処にある上海体育学院のキャンパス見学をした。

この他に、シンポジウムで発表するために武漢市の武漢理工大学、天津市の南海大学を訪問した折、英語の教員と意見する機会があったが、英語の教員として刺激を受ける話を伺った。

6. 大学英語4級6級考試の概要と試験問題 (College English Test, CET)

中国の外国語教育は年々盛んになってきたように思える。書店には、外国語、特に英語と日本語

の学習教材、資格検定試験教材が大きなスペースを占めている。TOEFL、大学英語(College English Test, CET)、全国公共英語等級考試(PETS)などの資格検定関係の参考書・問題集が目立つ。改革解放前は外国語といえばロシア語であったが、英語に取って代わり、ロシア語は一番人気のない外国語だともいえる。今までは小学校3年から英語教育が行われたが、2005年から重点実験小学校でない一般小学校でも1年生から始めるとのことである。都市部から始め、何年かの猶予があるが早晩全国で1年生から導入すると聞いた。TOEFL、TOEICを含むいろいろな試験が普及しているが、中でも次の2つは一般的である。

1) 全国公共英語等級考試(PETS)

Business English(実用英語)で、1級から5級までである。

1級: 1200語、中学、高校入学程度

2級: 2400語、2級から4級は大学入学同等、入試参考可能

3級: 4000語

4級: 5500語

5級: 7500語、留学希望者

2) 大学英語四六級試験(College English Test, CET)

大学生が大学卒業までに受験する全国英語検定試験である。読み書き会話を含む。

4級(Bound 4): 英語英文専攻以外の大学生は卒業までに合格することが求められる。国家公務員の条件。

6級(Bound 6): 英語英文専攻以外の優秀学生の条件。大学院入学条件。

8級(Bound 8): CET-4、次にCET-6で優重点をとり、口実試験で上位点のものが受験する最上級試験。英語英文専攻の学生、大学院修了者に求められる英語力。

上海對外貿易学院の英語教員(雷先生)の話では、当校の英語科学生は、2年生で4級合格者は100%、4年生で8級合格者は80%とのことであった。

3) 大学入試(七大学入試)における外国語

これは、中央教育部によって行われる日本のセンター入試に相当する。7月7日~9日に実施される。外国語は英語・日本語・ロシア語・フランス語・ドイツ語のうちから選択。外国語大学は90点以上、文化系は60点以上。交通大学は物理・数学・英語を重んじる。

(1) 大学英語四六級考試(College English Test, CET)の概要

中国の大学英語四六級受験案内(<http://www.cer.net>)を翻訳して示せば、CETの概要は以下の通りである。

中国の大学英語受験は、理工科本科(4年制の学部)と文理科本科(4年制の学部)が使用される「大学英語教学大綱」によって、教育部(日本の文部科学省に相当)の高等教育司が主管し、全国統一的に規定されている単科目の標準化教学試験(英語能力試験)である。大学英語4級試験と大学英語6級試験の2種類があり、CET-4あるいはCET-6と表記する。受験した合格者に大学英語4級あるいは6級の合格証書を与え、成績優秀の合格者に

「優秀」合格証書を授与する。

大学英語4級と6級試験は教育部の規定によって設けられている。その目的は、「大学英語教学大綱」に定めた大学英語4級と6級の教学的要求に基づいて、大学生の英語能力の水準を測定し、大学の英語教育水準を高めることを目的とする。

1. 申込と受験期日

申込受付は毎年3月と9月に行う。指定期間内に指定場所で申込まなければならない。申し込み期限終了後は受理しない。

試験は毎年2回行う。1月と6月に各1回（具体的な日時は各地の基準による）、4級と6級試験を同時に実施する。

2. 受験申込

(1) 申込資格

- 1) 大学で4級あるいは6級までの英語授業を修了した本科生（4年制の大学生）
- 2) 同レベルの専科生（3年制の大学生）や修士課程学生も大学の許可を得て受験できる。
- 3) 同学部レベルの夜間部や通信教育の大学生も大学の許可を得て受験できる。
- 4) すでにCET-4あるいはCET-6の合格証書を持つ者は、CET-4あるいはCET-6の受験はできない。
CET-4あるいはCET-6の不合格者は再受験できる。
- 5) 1987年後受験したことがない本科卒業

(2) 申込方法

- 1) 在校生は学校単位で申込む。地方で実習している場合は、所在大学に申込む。
- 2) 社会人の場合は、大学英語4・6級考試委員会の指定場所に申込む。申込の際に専科生（3年制の大学生）以上の卒業証書、身分書、在職書および写真2枚が必要である。4級の不合格者は6級の受験はできない。

3. 受験生への注意事項

受験する際、身分書と受験票を持参しなければならない。

4. 受験成績

- 1) 大学英語試験の成績は100満点とする。60点以上が合格、85点以上が優秀。
- 2) 大学英語試験成績の総合点を知らせる。
- 3) 試験の結果は、試験終了後50日以内に受験者の大学に郵送する。
- 4) 成績に関する質問などは、本人の受験票と大学教務課の証明書を持参し試験センターに提出して調べることができる。その場合、手数料が掛かる。

三つの方式で成績を調べられる。

- ① 携帯電話
- ② 168音声電話：16899946（全国統一番号）
- ③ ホームページ：<http://cet.etang.com/>

5. 合格証書

大学英語試験の合格者に教育部高等教育司から合格証書を授与する。合格証書には「合格」あるいは「優秀」が明記される。紛失した場合は、発行後4年内なら大学教務課の証明書を添えて試験センターに申請書を提出し

て、「CET 試験合格証明」を発行してもらえすが、手数料が掛かる。合格証書の再発行はしない。発行後4年以上経過した場合は、「CET 試験合格証明」の再発行はできない。

6. 口述（面接）

受験者は、CET-4、CET-6 の合格証書を取得した在校生で、且つ4級の成績が80点以上（80点含む）あるいは6級の成績が75点以上（75点含む）でなければならない。大学英語口述試験は、毎年5月、11月に行う。申込期日は3月、9月（具体的な日時は各地の基準による）である。口述の成績は、A、B、C、D の四つの等級に分けられる。C 以上取得した受験者は、教育部高等教育司から CET-SET 等級証明書をもらえる。

中国の「大学英語考試」は、国家教育部高等教育司が主管する全国統一試験で、1987年より実施。1999年からは「大学英語4・6級口語考試」が試行された。「大学英語考試」（College English Test, CET）は、1987年から「全国大学英語四六級考試委員會」に委託して実施されている。試験は1989年以降、1月と6月の年2回実施され、毎年240万人が受験している。試験内容は聴解、読解、総合運用力、短文作成である。

大学の英語授業の内容は「大学英語教学大綱」によって全国統一的に規定されている。従って、大学の英語教育は、CET に合格するという目的に添った教材を使用し指導することであって、日本の大学のように大学、教師の裁量の余地はない。日本のように、教員が好きな教材で好きなように教えることは許されない。実用的スキルとしての英語力を身につけるための英語の授業であるので、文学作品を味読するとか、文化を理解するとかいう理由が先に来ることはないのである。

CET によって、(1) 大学生の英語能力水準を測定し、(2) 大学の英語教育水準を測定している。すなわち、成績には様々な統計分析が施され、クラス別、学年別、大学別、省・市別に水準が分かるように処理される。分析結果が公開され、どこの大学の学生の英語能力が高いか低いかわかるようになっている。この試験結果により、大学のレベルが分かると同時に、大学の中でも各教員の能力・教授法まで分かってしまう。大学の英語の教育を全国的に向上させようとする国家的戦略である。

中国の「大学英語4・6級考試」は大学の英語の授業と直結するもので、TOEIC、TOEFL、英検などの資格試験とはその性質と目的を異にする。しかし、語学力測定の点では変わりはない。試験内容、筆者が見聞した限りでの大学での授業内容、大学生の英語力などを考慮して、上記の資格試験とあえて比較すれば、次のようなレベルチャートになるのではないだろうか。

大学英語4・6級考試	資格試験	レベル評価
CET-4	英 検	2級～準1級
	TOEIC	500～600
	TOEFL	480～540
CET-6	英 検	準1級～1級
	TOEIC	650～850
	TOEFL	520～650

(2) 大学英語試験問題の構成と内容

4級と6級の問題は、設問構成・問題数・設問形式・解答形式とも同じであって、違うところは難易度だけである。次に2002年1月6級問題を例にして、その内容を見てみよう。

試巻	問題区分	問題内容	問題数
試巻1	Part I Listening Comprehension 20分	Section A 男女の1、2文の対話文に対する質問を聞き、4つの選択肢から選ぶ。	10問
		Section B 200語程度の文章3題を聞き、それぞれの書かれた設問に4つの選択肢から選ぶ。	Passage One : 3問 Passage Two : 4問 Passage Three : 3問
	Part II Reading Comprehension 35分	400語程度の文章4題に対して設問各5問。4つの選択肢から選ぶ。難語には括弧書きで中国語訳が付されている。	Passage One : 5問 Passage Two : 5問 Passage Three : 5問 Passage Three : 5問
	Part III Vocabulary and Structure 20分	文の空所に適語句を4択肢より選ぶ。	30問
試巻2	Part IV Error Correction 15分	200語程度の文章の中の指定された行にある文法的な間違いを指摘し、誤語は正しい語に置き換える、不足語は補充する、不要語は削除する。	10問
	Part V Writing 30分	中国語文の英語翻訳ではなく、指示内容を含む英文を150語以上で書く。	1問

上の表に見るように、問題は〔試巻1〕と〔試巻2〕に分かれていて、以下の通りである。

〔試巻1〕 試験時間：75分間、設問数：70問 配点70点

〔試巻2〕 試験時間：35分間、誤所訂正10問、10点 作文1問、20点

合 計 試験時間：正味110分、100点満点

〈問題内容〉 例として各々第1問のみを記す。設問文はすべて英語で書かれていて、回答例が付いている。

Part I Listening Comprehension (毎題1分、共20分)

〔Section A〕 同様な問題が全10問。下記は〔設問1〕。

〔音声〕 *W : Is the rescue crew still looking for survivors of the plane crash?*

M : Yes, they have been searching the area for hours, but they haven't found anybody else. They will searching until night falls.

Q : What do we learn from the conversation?

〔選択肢〕 A) All the passengers were killed. B) The plane crashed in the night.
C) No more survivors have been found. D) It's too late to search for survivors.

〔Section B〕 3つの文章の聞き取り問題。下記は Passage One。

〔音声〕 Nilrikman and others of the Harvard research group have done some research into the differences between average and good negotiators. They found negotiators with the good trait record and studied them in action. They compared them with another group of average negotiators and found there was no difference in the time the two groups spent on planning their strategy. However, there were some

significant differences on other points. The average negotiators thought in terms of the present, but the good negotiators took a long term view. They made lots of suggestions and considered twice the number of alternatives. The average negotiators set their objectives as a single point. “We hope to get 2 dollars”, for example. The good negotiators set their objectives in terms of range, which they might formulate as “We hope to get 2 dollars, but if we get one dollar and fifty, it’ll be all right.” The average negotiators tried to persuade by giving lots of reasons. They used a lot of different arguments. The good negotiators didn’t give many reasons. They just repeated the same ones. They also did more summarizing and reviewing, checking they were understood correctly.

Questions 11 to 13 are based on the passage you have just heard.

11. What do good negotiators and average negotiators have in common?
12. According to the speaker, what would the good negotiators do?
13. According to the speaker, what does the average negotiators usually do?

〔選択肢〕 *Question 11 to 13 are based on the passage you have just heard.*

- | | |
|--|---|
| 11. A) Experience in negotiating. | B) A high level of intelligence. |
| C) The time they spend on preparation. | D) The amount of pay they receive. |
| 12. A) Study the case carefully beforehand. | B) Stick to a set target. |
| C) Appear friendly to the other party. | D) Try to be flexible about their terms. |
| 13. A) Make sure there is no misunderstanding. | B) Try to persuade by giving various reasons. |
| C) Repeat the same reasons. | D) Listen carefully and patiently to the other party. |

Part II Reading Comprehension 4つの文章に関する内容理解問題。下記は Passage One.

Navigation computers, now sold by most car-makers, cost \$2,000 and up. No surprise, then, that they are most often found in luxury cars, like Lexus, BMW and Audi. But it is a developing technology — meaning prices should eventually drop — and the market does seem to be growing.

Even at current prices, a navigation computer is impressive. It can guide you from point to point in most major cities with precise turn-by-turn directions — spoken by a clear human-sounding voice, and written on a screen in front of the driver.

The computer works with an antenna (天线) that takes signals from no fewer than three of the 24 global positioning system (GPS) satellites. By measuring the time required for a signal to travel between the satellites and the antenna, the car’s location can be pinned down within 100 meters.

The satellite signals, along with inputs on speed from a wheel-speed sensor and direction from a meter, determine the car’s position even as it moves. This information is combined with a map database. Streets, landmarks and points of interest are included.

Most systems are basically identical. The differences come in hardware — the way the computer accepts the driver’s request for directions and the way it presents the driving instructions. On most systems, a driver enters a desired address, motorway junction or point of interest via a touch screen or disc. But the Lexus screen goes a step further: you can point to any spot on the map screen and get directions to it.

BMW’s system offers a set of cross hairs (瞄准器上的十字纹) that can be moved across the map (you have several choices of map scale) to pick a point you’d like to get to. Audi’s screen can be switched to TV reception.

Even the voices that recite the directions can differ, with better systems like BMW’s and Lexus’s having a wider vocabulary. The instructions are available in French, German, Spanish, Dutch and Italian, as well as English. The driver can also choose parameters for determining the route: fastest, shortest or no freeways (高速公路), for example.

21. We learn from the passage that navigation computers _____.
 A) will greatly promote sales of automobiles
 B) may help solve potential traffic problems
 C) are likely to be accepted by more drivers
 D) will soon be viewed as a symbol of luxury
22. With a navigation computer, a driver will easily find the best route to his destination _____.
 A) by inputting the exact address
 B) by indicating the location of his car
 C) by checking his computer database
 D) by giving vocal orders to the computer driver
23. Despite their varied designs, navigation computers used in cars _____.
 A) are more or less the same price
 B) provide directions in much the same way
 C) work on more or less the same principles
 D) receive instructions from the same satellites
24. The navigation computer functions _____.
 A) by means of a direction finder and a speed detector
 B) basically on satellite signals and a map database
 C) mainly through the reception of turn-by-turn directions
 D) by using a screen to display satellite signals
25. The navigation systems in cars like Lexus, BMW and Audi are mentioned to show _____.
 A) the immaturity of the new technology
 B) the superiority of the global positioning system
 C) the cause of price fluctuations in car equipment
 D) the different ways of providing guidance to the driver

Part III Vocabulary and Structure 4級と6級では難易度にかなりの差がある。30問中最初から5問を記す。

41. The lady in this strange tale very obviously suffers from a serious mental illness. Her plot against a completely innocent old man is a clear sign of _____.
 A) impulse B) insanity C) inspiration D) disposition
42. The Prime Minister was followed by five or six _____ when he got off the plane.
 A) laymen B) servants C) directors D) attendants
43. There is no doubt that the _____ of these goods to the others is easy to see.
 A) prestige B) superiority C) priority D) publicity
44. All the guests were invited to attend the wedding _____ and had a very good time.
 A) feast B) congratulations C) festival D) recreation
45. The price of the coal will vary according to how far it has to be transported and how expensive the freight _____ are.
 A) payments B) charges C) funds D) prices

試卷2

Part IV Error Correction 1文中に10問、15分（解答は筆者が記入）

Directions: This part consists of a short passage. In this passage, there are altogether 10 mistakes, one in each numbered line. You may have to change a word, add a word or delete a word. Mark out the mistakes and put the corrections in the blanks provided. If you change a word, cross it out and write the correct word in

the corresponding blank. If you add a word, put an insertion mark (/) in the right place and write the missing word in the blank. If you delete a word, cross it out and put a slash (/) in the blank.

Example :

Television is rapidly becoming the literature of our periods. 1. periods → Time/times/period
Many of the arguments having used for the study of 2. _____ /
literature as a school subject are valid for / a study of television. 3. the _____

Sporting activities are essentially modified forms of hunting behavior.

Viewing biologically, the modern footballer is revealed as a member of a disguised hunting pack. His killing weapon has turned into a harmless football and his prey into a goal mouth. If his aim is inaccurate and he scores a goal, enjoys the hunter's triumph of killing his prey.

S1. viewing → viewed

S2. inaccurate → accurate

S3. enjoys の前に → / he

To understand how this transformation has taken place we must briefly look up at our ancient ancestors. They spent over a million year evolving as co-operative hunters. Their very survival depended on success in the hunting-field.

S4. up → back

S5. year → years

Under this pressure their whole way of life, even if their bodies, became radically changed. They became chasers, runners, jumpers, aimers, throwers and prey killers. They cooperate as skillful male group attackers.

S6. if → If

S7. co-operate → co-operated

Then, about ten thousand years ago, when this immensely long formative period of hunting for food, they became farmers. Their improved intelligence, so vital to their old hunting life, were put to a new use-that of penning (把……朕中圈中), controlling and domesticating their prey.

S8. when → in/through

The food was there on the farms, awaiting their needs.

The risks and uncertainties of farming were no longer essential for survival.

S9. were → was

S10. survival の前に → / their

Part V Writing 1 問30分

作文は、単語の綴りや文法に間違いがないかどうかだけではなく、要件にかなう文章として、文体・内容とも適当であるかどうかまで評価する。華文英訳力というより文章構成・表現力を問うものである。[四六级考试作文写作考前指导] (<http://learning.sol.sohu.com>)には、作文添削のポイントの解説があるので評価基準が推測できる。次は2001年1月の6級問題である。

Directions: For this part, you are allowed thirty minutes to write a composition on the topic: A Letter to the University President about the Canteen Service on Campus. You should write at least 120 words, and base your composition on the outline given in Chinese below:

假设你是李明, 请你就本校食堂的状况给校长写一封信, 内容应涉及食堂的饭菜质量、价格、环境、服务等、可以是表扬、可以是批评建议、也可以兼而有之。(仮にあなたの名前を李明として、大学の学長に食堂の現状を訴える手紙を出すことにします。内容は食堂の食事の質量、値段、環境、サービスなどを評価するものでも批判するものでも、その両方でもよい)

(下記の作文例は中国致公出版社: 2004版「英語6級考試」より転記)

Dear President,

As one of your university students, I am not very satisfied with our canteen service.

The first reason is that there are many students coming from all kinds of places. They may be not accustomed to the local food at the beginning of the term. So our canteen should provide much more kinds of food for them to choose.

Secondly, the price of the food is higher than we can afford. I hope the price of some food can be decreased a little. Then we can have a larger choice.

In addition to above suggestions, I want to reflect that many students will have lunch after classes. At that time, the canteen will become too crowded. So we hope that you can arrange some more seats for students.

These are my suggestions of our canteen service. I really hope you can take some measures to make the canteen service better and better. Thank you very much.

Yours, sincerely,

Li Ming

ま と め

中国の英語教育と大学英語四六級試験について日本の英語教育と比較して考察した。日本と違うところは、語学力に対する社会的要求、学生の意欲・目的意識、教育の目的と指導方法と内容のすべてにおいてある。決定的な相違は、国家的な統一試験に合格するための教育であるという点である。教育部（日本の文部科学省に相当）の高等教育司が主管し、全国統一的に規定されている単科目の標準化教学試験（英語能力試験）として大学英語4級と6級試験が設けられている。「その目的は、「大学英語教学大綱」に定めた大学英語4級と6級の教学的要求に基づいて、大学生の英語能力の水準を測定し、大学の英語教育水準を高めることを目的とする。」

これは、われわれ日本の大学で英語を教える者としては大変参考になる教育政策である。このシステムをそっくり取り入れることも英語教育改善の方策である。しかし、日本の教育の自由という精神からすると不可能であろう。せめて修正した形で学内的に利用できるのではないかと思う。大学単位、学部単位、あるいは学科単位で利用できるのではないか。

もし、中国のように英語の基準試験に合格しないものは卒業できないということになれば、それは学生と英語の教師にとって最大の刺激であり動機付けになることは間違いない。

そのためには、教員間の合意が第一で、その上で、明確な目標と手段を含むプログラム化、そして教材の選定・開発が必要である。あるいは、TOEFL、TOEIC、英検などを目標にした指導が可能である。筆者の所属する学部では、スキルとしての英語能力の養成を念頭において、外国人教師の多用、LL/CALL—Systemの利用、資格試験に対応した授業科目の設定、英語授業科目の増加、任意ではあるが課外英語（英会話コースとTOEICコース）の開設、英語による専門科目授業の開講、海外語学・専門科目研修、留学を試みている。かなりの効果は期待できると信じるが、しばらく待たなければならない。

筆者は、中国のCETの方式を参考にして、学部内の英語教育方式を考案したいと思っている。